第68回医療薬学公開シンポジウム　開催報告書

実行委員長　宮村充彦（高知大学医学部附属病院薬剤部）

2017年11月19日(日)に、高知大学医学部臨床講義棟を会場として、第68回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、共催：高知県病院薬剤師会、高知県薬剤師会）を開催しました。テーマを「医療情報のIT化と地域医療連携の推進」とし、シンポジウム3題、基調講演2題、特別講演1題を設けました。秋晴れのなか、病院薬剤師48人、薬局薬剤師12名、その他の医療関係者6名、合計66名の方々にご参加いただきました。

最初にシンポジウムとして、高知大学医学部附属病院薬剤部薬品情報室長の岡﨑雅史先生より「地域医療連携における病院薬剤師の役割」、高知県薬剤師会香長土支部長の稲本悠先生より「保険薬局が必要な医薬情報とIT化について」、高知県健康政策部医療政策課課長補佐の松岡哲也先生より「高知県における医療情報ICTの現状と課題」についてご講演いただきました。それぞれが病院薬剤師、薬局薬剤師、行政の立場から、高知県のICTについて現状と課題をお話いただきました。

次に、基調講演Ⅰでは、中外合同法律事務所の赤羽根秀宜先生より「医療情報共有のための法的知識」として、個人情報の定義から改正された個人情報保護法まで、我々薬剤師が扱っている患者情報が法律上でどのように位置づけされているかを分かりやすくご講演いただきました。基調講演Ⅱでは、高知大学医学部附属病院リハビリテーション部准教授の石田健司先生より「地域包括ケアシステムと介護予防-IT 通信を用いた介護予防の小経験-」として、10年以上前から高知県で取り組んでいる遠隔医療について、実際に患者がリハビリを行っている動画等を交えてご講演いただきました。

特別講演では、香川大学瀬戸内圏研究センター特任教授の原量宏先生より「地域医療連携に関わる取り組み-香川県におけるK-MIXの開発・運用を中心として-」として、香川県で運用されている遠隔医療ネットワークK-MIXと、その発展型であるK-MIX+について、開発・運用から最新の知見までご講演いただき、少子高齢化の進む高知県において進むべき方向性をご示唆いただきました。

その後、ご講演いただいた6名の先生方によるパネルディスカッションを行い、会場からも活発な質疑があり、盛会裡に終了しました。

最後に、今回のシンポジウム開催にあたり、ご共催いただいた高知県病院薬剤師会、高知県薬剤師会、さらに企画・運営にご尽力いただいた日本医療薬学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。